20250301 郡司

令和六年度　福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校　卒業証書授与式　校長式辞

東北に春を告げる広野町に暖かな日差しが降り注ぐ今日の佳き日に、日頃から大変お世話になっている国や県、双葉郡八町村を始め、たくさんの方々のご臨席を賜り、令和六年度の卒業証書授与式を挙行できますことは、真に喜ばしい限りであり、皆様に深く感謝いたします。

ただ今、呼名されました中学校六十名、高等学校一三二名の生徒諸君、卒業おめでとう。君たちの新たな門出を祝福しますとともに、今日まで惜しみない愛情を注ぎ育ててこられた保護者の皆様に、心からお祝いを申し上げます。

中学三年生はニュージーランド研修やスポーツ活動を行った後に、そして、高校三年生は本日限りで卒業となります。卒業生全員が気持ちに区切りをつけ、四月からの新しい生活に向けた決意を確かなものとするため、卒業式というこの厳粛な場において、今一度ふたば未来学園での日々を思い起こしてみてください。

君たちが入学した二〇二二年は、ワクチン接種は進んだものの、新型コロナウイルス・オミクロン株が流行し、入学式は全員マスク着用でした。しかし、医療や行政の方々のお陰で、コロナ禍でしたが授業はほぼ通常どおり行われ、前の年中止だった双来祭も開催できました。中学校行事の東京グローバル・ゲートウェイ研修を初めて実施し、高校のドイツ研修も再開しました。部活動では、大会やコンクールに加え海外遠征にも参加し、ＪＦＡアカデミー福島がファイナルズで日本一になったのもこの年でした。二年生になってコロナが五類に移行してからは、探究活動も活発化し、双葉郡の特産物を用いた商品開発や震災の記憶の伝承活動、地域の自然や伝統文化を守る持続可能な取組など、一人一人が課題意識を持って意欲的に行いました。加えて、高校では野球の全校応援、中学校ではブリティッシュヒルズ研修を初めて開催したのもこの年度です。そして三年生になった去年四月、三島長陵校舎の生徒が帰還して開校十年目にしてようやく学園が完成し、共に学ぶ生徒数は過去最大となり勢いが増しました。前の年を上回る成果を残す部活動もあり、バドミントン部やレスリング部は国内外の大会で入賞し、夏の壮行会に来てくれたオリンピック選手のような活躍を大いに期待させてくれました。

このように順調に見える三年間ですが、陰では様々な悩みや葛藤があったと思います。長く続いたコロナ禍の自粛生活で失ったものを、どのように取り戻したら良いか。親元を離れて暮らす心細い寮生活の中で、どのように自己管理を行ったら良いか。そして、これまで先輩が進んでいない進路の実現に、どのように取り組めば良いか。経験したことのない課題に直面し、思い悩みながら手探りで過ごしたように感じた時期もあったことでしょう。しかし、主体的・対話的に深く学ぶアクティブ・ラーニングによる授業や地域課題を演劇で表現し解決に向けて取り組む探究活動、客観的に見た自分の成長を見える化してメタ認知を高めるルーブリック評価など、特色ある教育活動をとおして君たちには、本校の建学の精神である「変革者」に相応しい主体性や協働性、創造性が十分育まれています。無自覚な内にも、去年亡くなられた谷川俊太郎さんが残した校歌の歌詞のように、しなやかに、たくましく、おおらかに成長しているのです。

さて、今年は広島・長崎に原子爆弾が投下され、戦争が終わって八十年となります。人類史上最悪の兵器は、強烈な熱線や爆風、大量の放射線で二十一万もの尊い命を奪い、生き残った人々をも苦しめ続けました。核兵器のない世界の実現を目指し、長きに渡り被爆者の方々が行ってきた目撃証言などの活動が評価され、去年、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞しました。ノルウェーで行われた授賞式には、高齢となった日本被団協の代表者とともに、「ビリョクだけどムリョクじゃない」をスローガンに平和大使として活動している高校生が同行し、世界平和を訴えました。このニュースを見て私は、戦争が続く国際社会において、悲劇を繰り返さないために若い世代にもできることがあり、被爆者の証言を語り継ぐ次の世代として若者が大いに期待されていると感じました。

間もなく東日本大震災から十四年が過ぎようとしています。多くの方々のご尽力でこの地域の復興は確実に進んでいますが、未だ処理水の海洋放出や核燃料デブリの取り出しなど重い課題が残っており、廃炉まではしばらく時間が必要です。時間の経過とともに震災の記憶は薄れ、震災を経験していない世代が増えていきます。一方で、君たちのように探究活動をとおして、この地域の課題解決に取り組む志のある若者も毎年育っています。三年前、私が本校に赴任した時、地域の方から「ふたば未来学園の生徒は地域の宝だ」と言っていただきました。この言葉を聞き、君たちは地域や社会の未来の担う若者として大いに期待されていると感じるとともに、私も本校の仕事を頑張る意欲が高まりました。人類が経験したことのない未曽有の複合災害で生じた課題は、双葉郡だけでなく、日本全体、ひいては世界の課題にも繋がります。この地に残っても、この地を離れても、地域や社会のためにできることはたくさんあります。是非、自分の強みと本校での学びを生かして、課題解決に取り組んでもらいたい。自分にできるのだろうかと、不安や疑問を感じるかもしれません。しかし、去年大リーグで五九盗塁・五四本塁打の偉業を成し遂げた大谷翔平選手も、君たちが入学した三年前は十一盗塁・三四本塁打に留まっていました。高い志と目標を持って努力を続ければ、良い意味での想定外が十分起こりうる時代です。戦争と原爆投下の悲劇を経験した日本に生まれ、東日本大震災と原発事故の被害を受けた福島県で学び、現在休校中の五つの高校の先輩の伝統を受け継いだ君たちには、地域や社会を支える次の世代として活躍してほしいと切に願っています。

保護者の皆様に申し上げます。本日の喜びは如何ばかりかと拝察いたします。皆様にとってかけがえのないお子様の教育に、私たち教職員を信じてご協力いただき、ありがとうございました。そして、卒業生諸君、君たちの卒業は、勿論、君たち一人一人の努力の賜物ではありますが、同時に温かい愛情を持って励まし、支えてこられたご家族や多くの人のお陰でもあります。この旅立ちの門出において、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝えてけじめをつけ、四月からの新しい舞台で、「地域の宝」と呼ばれた者の使命と誇りを胸に、自身の夢や希望の実現に向けて、更なる挑戦を続けてほしいと思います。

結びに、本校を巣立つ卒業生全員のこれからの人生に幸多からんことを願うとともに、本日ご参会の皆様のご多幸とご健勝を心からお祈りして、式辞といたします。

令和七年三月一日　　福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校　校長　郡司　完